

《情報公開文書》

当院における上腸間膜動脈塞栓症 22 例の検討

研究の概要

【背景】

上腸間膜動脈塞栓症(以下、SMA 塞栓症)は、急性腹症の約1%と頻度が低い疾患ですが、腸管虚血や壊死を招くリスクが高い予後不良な疾患であり、近年の診断・治療技術の進歩にも関わらず死亡率が約50%にも達するとの報告もあります。早期診断・早期治療が重要ですが、初期段階では臨床・検査所見共に特徴的なものが存在しないため造影検査等で診断をつける必要があり、診断に難渋することもあります。また、外科的切除が必要となる腸管壊死の有無を判断するための確立した方法はなく、壊死を疑う場合は試験開腹を選択せざるをえない状況も多々あります。

【目的】

長崎大学病院での症例を検討し、SMA 塞栓症における腸管壊死の診断率の向上を目指し、短腸症候群を回避するためのIVR先行の意義を確認します。本研究は研究対象者の情報を用いてSMA 塞栓症患者の患者背景、病歴、理学所見、画像所見に関して解析することを目的とします。

【意義】

本研究を行う事でSMA 塞栓症患者の診断に有用な方法が確立される事が期待できます。

【方法】

カルテ情報を収集し、腸管壊死に至った群と、至らなかった群に分けて、二群間比較を行います。

対象となる患者さん

2013年1月1日～2022年12月31日の間に長崎大学病院移植・消化器外科にて上腸間膜動脈塞栓症と診断された患者さんを対象とします。

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

治療前：

患者背景、性別、年齢、主訴、病歴、既往歴、内服薬、体重、CT所見、診察所見、血液学的検査(白血球数、リンパ球数、単級数、好中球数、Hb、血小板、PT、APTT)、血液生化学検査(Na、Ca、Cl、P、AST、ALT、ALP、 γ -GTP、LDH、BUN、Cre、総蛋白、Alb、

CRP、CK)、血液ガス検査所見 (Lactate、BE)	
治療時： 治療日、塞栓部位、治療内容、出血量、手術時間、切除腸管長	
治療後： 入院期間、術後合併症、転帰	
情報の利用開始予定日	
本研究は 2024 年 1 月 23 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。	
あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。 ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。 あらかじめご了承ください。	
研究実施期間	
研究機関長の許可日～2024 年 3 月 31 日	
研究実施体制	
研究責任者	所属：長崎大学病院 大腸・肛門科 氏名：川口 雄太 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095 (819) 7316
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】 長崎大学病院 大腸・肛門科 川口 雄太 〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095 (819) 7316 FAX 095 (819) 7319	
【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療相談室 095 (819) 7200 受付時間 : 月～金 8:30～17:00 (祝・祭日を除く)	